

令和7年度

小学校教育課程研究協議会【生活科】 美濃・可茂教育事務所

日時 令和7年7月23日(水) 13:00~16:00

場所 美濃加茂市立西中学校 1年4組教室

【全体主題】

「指導と評価の一体化」を核とした授業改善・学習改善の在り方

1 日程

13:00~ 13:10 全体説明
13:10~ 13:40 実践交流
13:40~ 15:00 生活科主題説明(演習①)
15:10~ 15:55 演習②・グループ協議

2 当日の内容及び持ち物について

【グループ協議等について】

●実践交流

「児童の振り返りと教師の見取りの工夫について」

「児童の振り返りと教師の見取りの工夫について」をテーマに、これまでの実践を交流します。

●演習①

実践事例をもとに、「気付きの質の高まり」と「そのための指導と評価」について考えます。

●演習②・グループ協議

「振り返り・伝え合う場の設定について」

実践事例をもとに、体験活動と表現活動がどのようにつながっているのかを考えます。その後、単元末の表現活動をどのように行うかについて協議します。

●当日の持ち物

- 1 小学校学習指導要領解説(平成29年告示) 生活編
- 2 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(小学校 生活)
(国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月)
- 3 グループ協議Ⅱで用いる資料(10部)
自分の実践を説明しやすくするため、テーマに関わる実践について「指導案」、
「指導と評価の計画(単元指導計画)」、「教材や実践の様子が分かる写真」などがある
れば、任意の様式で持参してください。新しく作成していただく必要はありません。

生活科部会

【主題】幼保小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

1

テーマ

児童の振り返りと教師の見取りの工夫について

【主題】幼保小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

2

主題説明

【生活科部会の主題】

幼保小をつなぎ、
発達特性と実態に応じた授業づくりへの
指導と評価の一体的充実

【主題】幼保小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

3

【架け橋期】

フェーズ1 目標・視点	フェーズ2 視点・目標	フェーズ3 視点・目標	フェーズ4 視点・目標
目標 児童が自分の学びや生活について、 興味・関心をもつようになり、 主体的に学ぶ姿勢を育てる。	目標 児童が自分の学びや生活について、 興味・関心をもつようになり、 主体的に学ぶ姿勢を育てる。	目標 児童が自分の学びや生活について、 興味・関心をもつようになり、 主体的に学ぶ姿勢を育てる。	目標 児童が自分の学びや生活について、 興味・関心をもつようになり、 主体的に学ぶ姿勢を育てる。
視点 児童の学びや生活について、 興味・関心をもつようになり、 主体的に学ぶ姿勢を育てる。	視点 児童の学びや生活について、 興味・関心をもつようになり、 主体的に学ぶ姿勢を育てる。	視点 児童の学びや生活について、 興味・関心をもつようになり、 主体的に学ぶ姿勢を育てる。	視点 児童の学びや生活について、 興味・関心をもつようになり、 主体的に学ぶ姿勢を育てる。

【表】

【主題】幼保小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

4

1. 幼保小のつながり

生活科の資質・能力は…

知識及び技能の**基礎**

思考力、判断力、表現力等の**基礎**

学びに向かう力、人間性等

に重点

【主題】幼保小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

5

1. 幼保小のつながり

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現



【主題】幼保小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

6

1. 幼保小のつながり

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

【注】幼保小をつなぎ、発達特性と課題に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

7

1. 幼保小のつながり

【注】幼保小をつなぎ、発達特性と課題に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

8

2. 小学校低学年の発達特性

幼児期の発達特性

↓

小学校低学年の発達特性

【注】幼保小をつなぎ、発達特性と課題に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

9

2. 小学校低学年の発達特性

幼児期の発達の特性

幼稚園教育要領解説（平成 30 年 2 月）

- 運動機能が急速に発達する
- 次第に自分でやりたいという意識が強くなる一方で、信頼できる保護者や教師などの大人にまだ依存していたいという気持ちも強く残っている
- 自分自身のイメージを形成し、それに基づいて物事を受け止めている
- 周囲の対象の言動や態度などを模倣したり、自分の行動にそのまま取り入れたりする
- 人々と交渉する際の基本的な枠組みとなる事柄についての概念を形成する
- やってよいことや悪いことの基本的な区別ができる

【注】幼保小をつなぎ、発達特性と課題に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

10

2. 小学校低学年の発達特性

心理学者「ピアジェ」

4～7歳の特徴

- ・アニミズム
- ・言葉で表現
- ・まねごと
- ・想像力を使った遊び
- ・自己中心的

【注】幼保小をつなぎ、発達特性と課題に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

11

2. 小学校低学年の発達特性

幼稚園教育要領解説（平成 30 年 2 月）

幼児期の発達を促すもの

ア 能動性の発揮

イ 発達に応じた環境からの刺激

【注】幼保小をつなぎ、発達特性と課題に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

12

2.小学校低学年の発達特性

幼児期～小学校低学年の発達特性

↓

生活科の授業づくりに生かす！

こんな生活科になっていませんか？

例・動画や資料に頼りがち・・・

・先生の「指示」でいっぱい・・・

・個人の活動ばかり・・・

幼児期からの
接続が大事です

【主題】幼児小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

13

3.対象児童の実態について

「生活科の振り返り」っていわれても・・・
なかなかうまくいかないんだよね。

むりむり・・・

どうしました？

【主題】幼児小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

14

3.対象児童の実態について

①「文字が書けないもん」

②「何を書くか、分らないもん」

③「書きたいとか、思わないもん」

こんなこと
ありませんー

ありやー

【主題】幼児小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

15

3.対象児童の実態について

①振り返りの方法に無理はないか

②振り返りは何をすることなのか、伝わっているか

③気付き（感動や喜び）のある単元になっているか

ふむふむ・・・

どうですか？

【主題】幼児小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

16

3.対象児童の実態について

主体的な振り返り

むりやり
やらせてたかも・・・

子どもが主役ですから。

【主題】幼児小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

17

3.対象児童の実態について

①振り返りの方法に無理はないか。

✓チェック1：いつも文章の振り返りを求めていますか？

✓チェック2：文章の量が多いと「良い」と価値付けていませんか？

【主題】幼児小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

18

3.対象児童の実態について

②振り返りは何をすることなのか、伝わっているか

✓チェック3：授業でやった事実だけの振り返りになっていませんか？

✓チェック4：指導・支援がないまま、「感想書き」をさせていませんか？

【主眼】幼少小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

19

3.対象児童の実態について

③気付き（感動や喜び）のある単元になっているか

✓チェック5：自分自身への気付きが生まれる活動（単元）になっていますか

✓チェック6：気付きを促したり認めたりするフィードバックを授業のなかでしていますか

【主眼】幼少小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

20

3.対象児童の実態について

③気付き（感動や喜び）のある単元になっているか

フィードバック

- ・○○のことがたくさん分かるようになったよ。
- ・○○が得意だと分かったよ。
- ・これからも○○遊びをしたいな。
- ・友達に上手に教えてあげることができたね。
- ・友達の教えてくれることをよく聞いていたね。
- ・○○を工夫することができたね。
- ・○○と○○を比べて考えたんだね。

表現

【主眼】幼少小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

21

4.授業づくりへの生かし方

参考資料p60-61

- ・行動観察
- ・発言分析
- ・表現物の分析
- ・振り返りの記述の分析

【主眼】幼少小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

22

4.授業づくりへの生かし方

参考資料p62

- 評価資料ア
 - 評価資料イ
 - 評価資料ウ
 - 評価資料エ
- などが並べられた様子
遊ぶ様子
点数表
約束やルールを示した説明書

【主眼】幼少小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

23

5.気付きの質を高める指導と評価 解説p5-6

平成20年改訂の学習指導要領では、活動や体験を一層重視するとともに、**気付きの質を高めること**、**幼児期の教育との連携を図ること**などについて充実を図った。

○身近な人々、社会及び自然等と直接関わることや気付いたこと・楽しかったことなどを表現する活動を大切にする学習活動が行われており、言葉と体験を重視した改訂の趣旨がおおむね反映されている。

○「気付きの質を高めること」は、平成29年改訂（現行の学習指導要領）でも、引き続き大切にしたいことです。

【主眼】幼少小をつなぎ、発達特性と実態に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

24

5.気付きの質を高める指導と評価
解説p13

①無自覚だった気付きが自覚される。
②一人一人に生まれた個別の気付きが関連付く。
③対象のみならず**自分自身についての気付き**が生まれる。

低学年では、特に自分自身についての気付きを大切にしている

○自分自身についての気付きとは
①集団生活になじみ、集団における自分の存在に気付く。
②自分のよさや得意としていること、また、興味・関心をもっていることなどに気付く。
③自分の心身の成長に気付く。

【主眼】幼児小をつなぎ、発達特性と興味に応じた段階づくりへの指導と評価の一体的充実

25

5.気付きの質を高める指導と評価
解説p15

「考える」
・自分自身や自分の生活について、見付ける、比べる、たとえるなどの学習活動により、分析的に考える。
・試す、見通す、工夫するなどの学習活動により、創造的に考える。

「表現する」
・気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法によって、他者と伝え合ったり、振り返ったりする。

【主眼】幼児小をつなぎ、発達特性と興味に応じた段階づくりへの指導と評価の一体的充実

26

5.気付きの質を高める指導と評価

気付きの質の高まりに関わって

自分自身や自分の生活について**考え、表現することにより、気付きの質が高まり、対象が意味付けられたり価値付けられたりする**ならば、身近な人々、社会及び自然は自分にとって一層大切な存在になってくる。このような「深い学び」の実現こそが求められるのである。
解説p15

気付きの質の高まりは、満足感、成就感、自信、やり甲斐、一体感などの手応えとなり、次の体験への安定的で持続的な意欲につながっていくことになる。生活科においては、**気付きの質の高まりが深い学びである**と捉えることができる。
解説p77

【主眼】幼児小をつなぎ、発達特性と興味に応じた段階づくりへの指導と評価の一体的充実

27

5.気付きの質を高める指導と評価

生活科における「深い学び」とは…

気付きの質の高まり

【主眼】幼児小をつなぎ、発達特性と興味に応じた段階づくりへの指導と評価の一体的充実

28

5.気付きの質を高める指導と評価

演習①

【主眼】幼児小をつなぎ、発達特性と興味に応じた段階づくりへの指導と評価の一体的充実

29

5.気付きの質を高める指導と評価
参考資料p44～

■ 単元名 「いきもの 大すき」
■ 第2学年 内容 (7)
「動植物の飼育・栽培」

【主眼】幼児小をつなぎ、発達特性と興味に応じた段階づくりへの指導と評価の一体的充実

30

5. 気付きの質を高める指導と評価

参考資料 p45～46

■ 単元名 「いきもの 大すき」

深い学びになるための教師の手立てに線を引いてください

【主眼】幼保小をつなぎ、発達特性と課題に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

31

5. 気付きの質を高める指導と評価

参考資料 p 46～p 50

■ 単元名 「いきもの 大すき」

深い学びだと考えられる箇所に線を引いてください

①無自覚 → 自覚（はっきり）
②個別 → 関連付く（しっかり）
③自分自身の成長への気づき（くっきり）

【主眼】幼保小をつなぎ、発達特性と課題に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

32

5. 気付きの質を高める指導と評価

参考資料 p 46～p 50

■ 単元名 「いきもの 大すき」

深い学びになるための教師の手立てに線を引いてください

【主眼】幼保小をつなぎ、発達特性と課題に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

33

5. 気付きの質を高める指導と評価 解説p94

見方・考え方に関わって

「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かした学習活動が充実することで、気付いたことを基に考え、新たな気づきを生み出し関係的な気づきを獲得するなどの深い学びを実現するようにする。

【主眼】幼保小をつなぎ、発達特性と課題に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

34

5 気付きの質を高める指導と評価 解説p90

○生活科の学習過程を通して

①思いや願いをもつ
②活動や体験をする
③感じる・考える
④表現する・行為する（伝え合う・振り返る）

○「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かして

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする

【主眼】幼保小をつなぎ、発達特性と課題に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

35

5. 気付きの質を高める指導と評価

①思いや願いをもつ ②活動や体験をする ③感じる・考える ④表現する・行為する（伝え合う・振り返る）

体験1 体験2 体験3 表現1 表現2 表現3

気付きの質を高める指導と評価

体験を深い学びにする
①伝える活動 無自覚→自覚
②意見交換する活動 個別→関連付く
③振り返る活動 自分自身への気づき

36

5. 気づきの質を高める指導と評価 解説p90

○生活科の学習過程

- ①思いや願いをもつ
- ②活動や体験をする
- ③感じる・考える
- ④表現する・行為する（伝え合う・振り返る）

※1単位時間内の振り返りの時間を充実させたり、振り返りの時間を終末に固定することなく行ったりするなどの工夫が必要です。解説P77

【注】効果小をつなぎ、発達特性と課題に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

37

5. 気づきの質を高める指導と評価 解説p97

活動や体験したことを言葉などによって振り返ることで、

- ①無自覚だった気づきが自分の中で明確になる。
- ②それぞれの気づきを共有し関連付けたりすることが可能になる。

伝え合ったり、振り返ったりする活動を位置付けるときに気を付けなければならないことは何でしょう？

【注】効果小をつなぎ、発達特性と課題に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

38

5. 気づきの質を高める指導と評価 解説p97

活動や体験が不十分で気づきが曖昧なまま、発表したりワークシートに書いたりする活動で振り返ることがないように気を付けなければならない。

振り返り表現する活動を位置付けるには？

- ①児童が気づきを頻繁に伝えようとしている。
- ②工夫し協力したことがやり遂げられて喜び合ったりしている。

このような教室全体の状況が生まれる必要がある。

【注】効果小をつなぎ、発達特性と課題に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

39

演習②・協議

テーマ

振り返り伝え合う場の設定について

【注】効果小をつなぎ、発達特性と課題に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

40

演習②

演習②

【注】効果小をつなぎ、発達特性と課題に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

41

演習②

生活科における深い学びを実現する単元づくり

①思いや願いをもつ ②活動や体験をする ③感じる・考える ④行為する・表現する（伝え合う・振り返る）

体験3 体験2 体験1

表現3 表現2 表現1

言葉や絵で表す、劇化する、動作化、説明する、記録し表現する（ICT活用）、振り返り表現する

【注】効果小をつなぎ、発達特性と課題に応じた授業づくりへの指導と評価の一体的充実

42

演習 2

実践例 (第1学年 単元名 わたしの はなを そだてよう)

アサガオを育てる活動では、アサガオの様子や出来事について教室で発表し合いながら、情報交換します。すると、子供は、「自分が見付けていないこともいっぱいあるんだな。今度、見てみよう。やってみよう。」と思いをもち、アサガオを育てようになる。アサガオの花が咲いて種ができたことに喜び、充実感や達成感を味わうと、今までの栽培活動について振り返りたい気持ちになる。そこで、観察カードで自分の栽培活動を振り返り、「最初の時の気持ちは、芽が出るか不安だったんだな。でも、芽が出たときは嬉しかったんだよな。」「水をたくさんあげたり、日に当てるために鉢を移動したり頑張ったな。」となり、今度は、「アサガオの成長」という本作りが始まる。

43

協議

内容

表現 3 をどのような活動にするか。

Point 1 発達特性や実態に合っているか。

Point 2 気付きの質が高まっているか。

①無自覚 → 自覚 (はっきり)
②個別 → 関連付く (しっかり)
③自分自身の成長への気づき (くっきり)

【注】幼保小をつなぎ、発達特性と実態に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

44

協議

テーマ

振り返り伝え合う場の
設定について

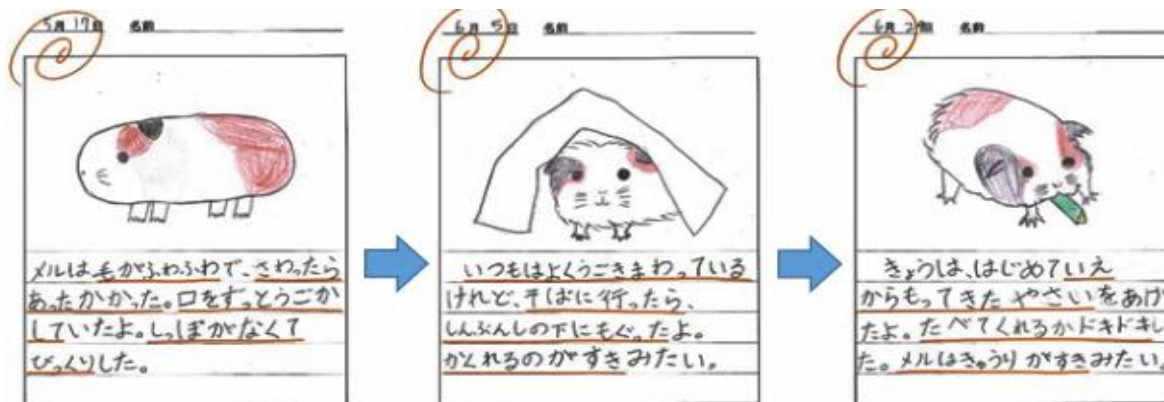
【注】幼保小をつなぎ、発達特性と実態に応じた設置づくりへの指導と評価の一体的充実

45

【演習①】 気付きの質を高める指導と評価について、実践例をもとに考える。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料p 44～50 事例Ⅰより

○深い学び（気付きの質が高まっている）の姿 に線を引きましょう	○深い学びに至った、教師の手立ては？
【A児】は、学級のみんで育てることになったモルモットのメル（オス・5才）に触れることに興味があり、なでたりえさを与えたりすることに意欲的に取り組んでいた。しかし、観察カードには「さわれてうれしかった。ふわふわだった。」「えさを食べてくれてうれしかった。」と、モルモットと触れ合った感想のみを記述していた。友達とモルモットについて発見したことを紹介し合う場を設定したが、次の観察カードの記述にもあまり変化は見られなかった。そこで、教師は、A児がメルと関わっているときに、教師が「例えば、犬とメルではどんなところが違うのかな。」と問いかけ、A児のメルへの気付きを言葉で引き出したり、価値付けたりするようにした。A児は、教師の問いかけに答えながら、「体が小さい。子猫ぐらいの大きさ。」「足が短い。」「しっぽがない。」など、メルの身体的特徴に気付き始めた。次第に、「あまり速く走れないけど、ときどき素早いときもある。」「すぐにかくれる。」といった行動面の気付きも観察カードに書くようになった。 このように、A児は当初よりも様々な視点からメルの特徴に気付くことができるようになり、「努力を要する」状況から「おおむね満足できる」状況へと変容した。 【B児】は、モルモットを観察しながら、「チモシー（牧草）をたくさん食べるよ。ねこじゃらしみたいな部分が一番すきみたい。小松菜よりもきゅうりが好きだよ。」「いつもはよく動き回っているけれど、そばにいったら、新聞紙の下にもぐったよ。かくれるのが好きみたい。」と、観察カードに絵と文で気付いたことを記録していった。B児は、繰り返しメルに触ったり、えさを与えたりしながら、メルの感触、身体的特徴、行動面の特徴、性格や嗜好など、観察カード（評価資料ア）に様々な視点からの気付きを書くことができた。 また、ある日、B児がビニル袋を開けてえさを与えようとしたところ、メルがケージの柵を飛び越えたことがあった。B児は「えさがほしくてケージを飛び越えた。『メルメルジャンプ』だ。」とそばにいた友達に知らせていた。メルがケージを飛びこえたのは、自分がえさを与えようとした際のビニルの音に反応したためと考えたのである。教師がB児に、そのように考えた理由をたずねたところ、「前に〇〇さんが『ビニル袋の音がすると、メルは野菜がもらえると分かるんだ。』と言っていたから。」と答えた。このように、B児はメルについて様々な視点から気付くことができおり、加えて自分と他者の気付きが関連付けられ新たな気付きが生まれていることから、「十分満足できる」状況であると判断した。	【学習活動】第2小単位では、モルモットの変化や成長の様子から、どのように世話をすればよいのかを考えながら、えさやりや水替え、掃除などの飼育活動を行う。ここからは、4人程度のグループを編成し、当番を決めて、日常的な飼育活動をしていく。飼育活動を始めたばかりの児童は手順通りに世話をすることだけで精一杯で、モルモットの様子に気を配ったり、モルモットの立場に立って世話をしたりするところまで思いが至っていない。しかし、継続的な飼育活動を通して、次第にモルモットにとって適切な飼育環境を知ったり、自分の世話とモルモットの変化や成長の様子を関連付けたりして、世話をすることができるようになると考え、学習活動を展開した。



評価資料ア B 児の観察カード

C児は、当番としてメルの世話をしているときに、「足の裏が少し赤い」というこれまでとは違うメルの変化に気付いた。また、体重が 1020 g で他のモルモットよりも重いことから、「体重が重くて、足が痛いのかな」と考えた。学級の子みんなに報告して話し合い、メルのストレスにならないくらいに運動させることになった。

始めは、ケージの掃除をしている間にメルを走らせようとしたが、時間が短く、メルが動こうとしなかったりかくれてしまったりしたため上手いかなかった。そこで、C児がみんなに、メルが動き回れる場所を広くするために、段ボールで柵を作り、毎日一定時間をその柵の中で過ごせるようにしてはどうか、と提案した。みんなで話し合い、獣医さんからのアドバイスも基にして考えた結果、C児の提案した方法を含めた 3 つの方法でメルのダイエットを試みることになった。C児は、近所のスーパーマーケットで段ボールをもらってきたり、段ボールの柵づくりでは率先して声を掛けたりしながら、友達と協力して柵を作り上げた。それから、毎日午前中に、メルをダンボールの柵の中で過ごさせるようにした。やがて、メルの体重は 1000 g を切り、足の裏の赤みも改善した。このように、C児はメルの足の裏や体重の変化に気づき、さらにその改善のために飼育環境を工夫していることから、「十分満足できる」状況であると判断した。

D児は、自分とメルとの関わりを振り返って、単元終末にモルモットの本を作成した。その中でD児は、右のように、長期にわたるメルとの関わりから、やってみよう、がんばろうという心が育ったことについて書いている。D児は、初めはモルモットのことを怖がっていて、それでも関わりたいという願いをもっていた。以前の昆虫の飼育単元での経験を思い出し、手袋を付けたら抱っこができるのではないかと考え、実際にやってみるとできたことで自信をもち、関わることができた。このように、思いや願いの実現に向けて、粘り強く関わることができた。また、継続的に世話をする中で、手袋なしで抱っこしてみようという思いをもち、自ら手袋を外して抱っこを試みた。この姿には、自分の活動を見つめ直し、学習を調整しようとする姿が認められる。さらに、D児は、休み時間にモルモットを見に来た1年生に対して、自分の経験を基に抱っここの仕方を説明していた。怖がる1年生には手袋をつけてモルモットに触ることを勧めたり、「慣れるとだっこできるようになるよ。」と励ましたりしていたのである。これらの作品や言動からは、メルのおかげで成長できた自分自身に気付き、モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、これからも関わり続けようとしている姿を見取ることができる。さらに、「こんどはほかの生きものもさわってみたいです。」と、生き物に関わる意欲を一層高めていることから、「十分満足できる」状況であると判断した。

ぼくはメルからやってみる心とがんばる心をもりました。せいしはだっこでなかつたけど、友だちがやっているのを見たから、やってみようかなと思いました。せいしはしっぽいでした。つぎに手ぶくろをつけてやってみました。手ぶくろをつけたからやれました。今では手ぶくろなくてもできます。こんどはほかの生きものもさわってみたいです。

【学習活動】

第1・2小単元で、児童はモルモットのことを知ったり関わったりして、モルモットの立場に立った世話の仕方がだんだんできるようになってきた。第3小単元では、これまで学んだことや感じたことを盛り込んで、自分だけのモルモットの本を作る活動を行う。ここで児童は、これまでの自分とモルモットとの関わりを振り返ることになる。モルモットと関わり始めた頃の児童は、関わり方としてはやや自分本位な面が見られ、モルモットの立場に立った関わり方や世話の仕方にはなっていなかった。しかし、継続してモルモットと触れ合い、飼育活動を通して試行錯誤を続けるうちに、モルモットの側から考えられるようになったり、モルモットについて詳しくなったりして、上手に世話ができるようになったという自分自身の成長も感じることができた。これらのことをより実感できるようにするために、これまでの自分とモルモットとの関わりを振り返り、そこから学んだことや様々な活動を通して感じたことを表現したり、自分自身の成長にも気付いたりする姿を期待して学習活動を展開した。

実践例 (第1学年 単元名 わたしの はなを そだてよう)

アサガオを育てる活動では、アサガオの様子や出来事について教室で発表し合いながら、情報交換します。すると、子供は、「自分が見付けていないこともいっぱいあるんだな。今度、見てみよう。やってみよう。」と思いをもち、アサガオを育てるようになる。アサガオの花が咲いて種ができたことに喜び、充実感や達成感を味わうと、これまでの栽培活動について振り返りたい気持ちになる。そこで、観察カードで自分の栽培活動を振り返り、「最初の時の気持ちは、芽が出るか不安だったんだな。でも、芽が出たときは嬉しかったんだよな。」

「水をたくさんあげたり、日に当てるために鉢を移動したり頑張ったな。」となり、今度は、「アサガオの成長」という本作りが始まる。

【演習②】

【第1学年】 単元名 『 わたしの はなを そだてよう 』

生活科における深い学びを実現する単元づくり

①思いや願いをもつ ——— ②活動や体験をする

④行為する・表現する
(伝え合う・振り返る)

③感じる・考える

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

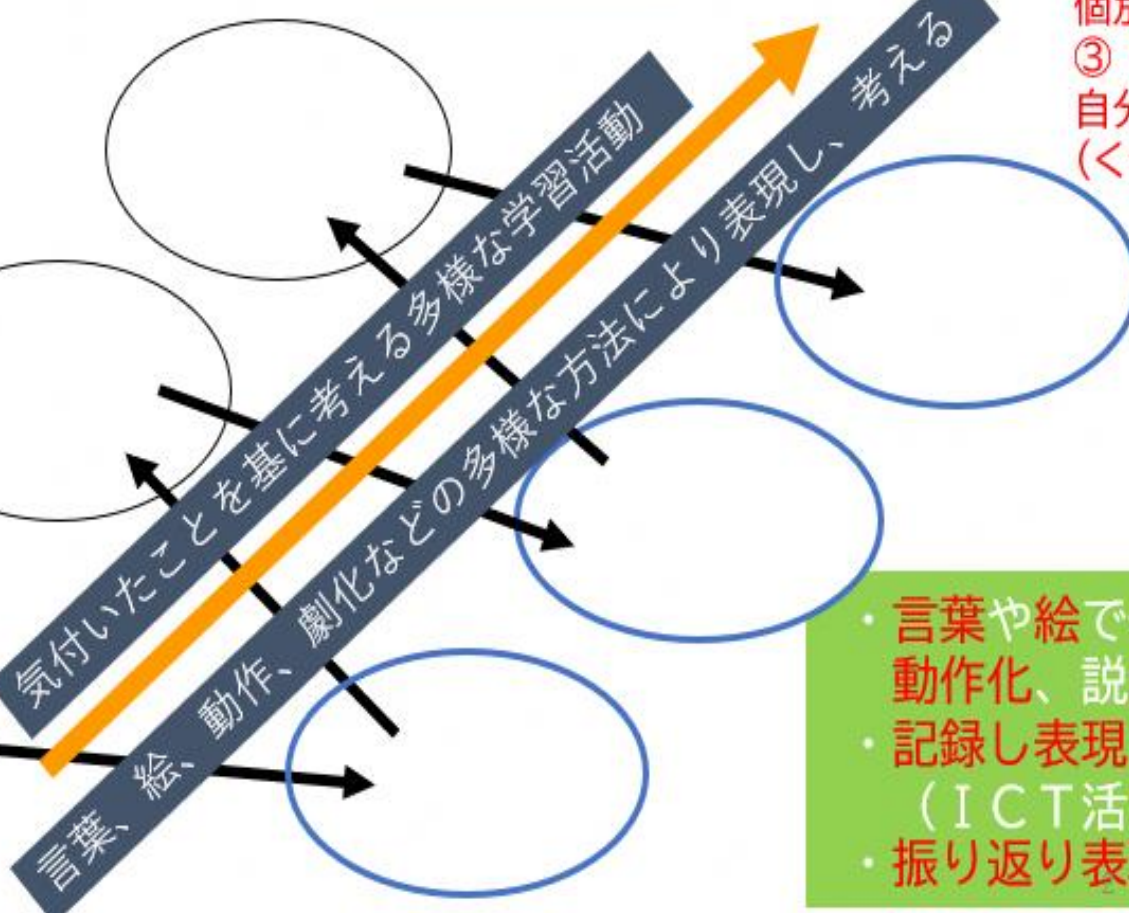
生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

体験を深い学びにする

- ① 伝える活動
無自覚→自覚(はっきり)
- ② 意見交換する活動
個別→関連付く(しっかり)
- ③ 振り返る活動
自分自身の成長への気付き
(くっきり)

見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどの身体を通して直接働きかける体験の楽しさを味わう



- ・言葉や絵で表す、劇化する、動作化、説明する
- ・記録し表現する
(ICT活用)
- ・振り返り表現する

【協議】 振り返り伝え合う場の設定の工夫 ～はつきり・しっかり・くつきりを実現するために～

単元「わたしのはなをそだてよう」の表現3をどのような活動にしますか？

■自分の考え

■グループ交流メモ

■今後の実践に取り入れていきたいこと